

はじめに・・・

滋賀の未来を担っていく子ども・若者が、日々の生活の中で幸せや豊かさを実感しながら心身ともに健やかに成長することは、私たちみんなの願いです。

しかしながら、子どもたちを取り巻く環境は日々、厳しさを増しております。ニートやひきこもり、不登校などの社会生活を円滑に営む上で困難を有し、生きにくさを感じている子どもたちの支援など、健やかな育ちを支えることが重要です。

県では、令和2年3月に「淡海子ども・若者プラン」を策定し、子どもが生まれる前から自立するまでの施策を総合的に進めているところです。

そうした中、新型コロナウイルス感染症の拡大により、改めて社会の脆弱性が浮き彫りになり、特に、弱い立場に置かれている子どもたちは、不安な気持ちを抱いたり、我慢を強いられたりするなど、様々な影響があったのではないかと考えています。県では、コロナ禍における子どもたちの休業中や学校再開後の生活の様子、心境などを把握するために、小・中学生、高校生、大学生等にアンケートを実施し、31,320人から回答を得ました。子どもたちの声を聴き策定した、子どもたちの笑顔を増やすための新しい行動様式「すまいる・あくしょん」には、ウィズコロナ・ポストコロナを見据えて、未来に繋がる7つの指標を設けており、「子どもが自分自身のためにできること」と「子どもが必要としていることに対して大人が行動すること」という2つの視点から、子どもと大人が取り組む行動を示しています。

子どもたちの笑顔につながる取組が県内に広がるよう、家庭、地域、学校、企業、そして私たち県民一人ひとりがそれぞれの役割を果たし、連携しながら取り組んでいくことが必要です。

本書では、本県の子どもたちを取り巻く現状と「淡海子ども・若者プラン」の関連事業の実績・成果を紹介しています。本書が広く活用されることにより、県民の皆さまに、子ども・若者育成に対する理解と関心を深めていただくための一助になれば幸いです。

令和3年（2021年）3月

滋賀県健康医療福祉部子ども・青少年局